横浜市
市民協働
推進センター

# IN SPIRAL（インスパイラル）

## 協働のまちづくりに向けて

横浜市市民協働推進センターは、地域団体・NPO・企業・
教育機関・行政など、組織の垣根を超えて協働を推進しています。

**多様な主体に寄り添い、**
**サポートするセンターの役割と、**
**市民による実践をご紹介します**

CONTENTS


P2-3 協働ストーリー
表現のチカラで特殊詐欺から市民を守る！

P4-5 特集　若者と地域社会
ヤングケアラーに寄り添う社会へ
若者の社会課題への挑戦

P6-7 協働を推進するセンターの取組
市民協働スタートアップ 2024
市民協働相談会
市民活動基礎セミナー
YOKOHAMAイノベーションダイアログ
協働 HUB　公益事業者交流会
市民活動アピールDAYS

P8 最新情報・お役立ち情報をお届け



運 営
認定NPO法人市民セクターよこはま・横浜市市民局市民協働推進課

# 表現のチカラで特殊詐欺から市民を守る！

## 任意団体「表現のチカラ」が市民協働提案事業に採択されるまで

「オレオレ詐欺」や「還付金詐欺」、「架空請求詐欺」といった特殊詐欺は、犯人が親族や公共機関職員を名乗って被害者から現金やキャッシュカードを騙し取ったり、犯人の口座に振り込ませる詐欺のことです。令和6年の特殊詐欺の被害総額は暫定721.5億円、認知件数は20,987件と、1日1億円以上の被害額があります。こうした特殊詐欺から市民を守るために、防犯演劇を通して啓発活動をしているのが、横浜市にある任意団体「表現のチカラ」です。

「表現のチカラ」代表
はだ 一朗さん（俳優）

## 演劇を通じて特殊詐欺を撲滅したい！

舞台俳優のはだ一朗さんは、特殊詐欺をモチーフにした作品を演じたことがきっかけで、その被害の悲惨さに直面しました。「演じることが悪用され多くの人が苦しんでいる事実を知ってしまった以上、被害を防ぐための啓発をしていくのが私の使命」と感じたはださん。防犯演劇の作品をつくり、横浜市内の警察や地域ケアプラザにアプローチすることと、舞台俳優の活躍の場をつくり、表現者自身が社会課題を啓発していくことを両輪で進めていこうと構想します。2019年、任意団体「表現のチカラ」を立ち上げ、横浜の全18区を巡ろうと動き始めた矢先、コロナ禍が世界を襲います。高齢者が家に引きこもることで、孤立や孤独、認知機能の低下などの課題が拡大するなか、市内の区民文化ホールや地域ケアプラザと協働して、動画配信やDVDの制作など、精力的に活動。コロナ禍明けから地域の高校生や演劇経験のある高齢者等を舞台にあげるなど、参加型の公演を行っています。こうした地道な活動を積み重ねた結果、2024年には横浜市市民協働提案事業に採択され、全18区での防犯演劇の普及に向けて動き出した「表現のチカラ」。「表現者の力によって、地域の特殊詐欺を減らしていく」活動は、横浜全域に広がっていきます。

### 1995年～
**舞台俳優として活躍**

### 2016年
**特殊詐欺被害をモチーフにした作品を舞台で演じ、社会課題に関心を持つ**

### 2018年
**横浜で特殊詐欺防止を啓発するために、地域ケアプラザへ**

自分が暮らす横浜で特殊詐欺被害が多いことを知り、市内で防犯演劇による啓発が必要だと考え、地域ケアプラザや警察、市民活動支援団体を訪ねる。

### 2019年
**資金集め**

市民活動について勉強を重ね、2019年に横浜市のプラットフォーム「LOCAL GOOD YOKOHAMA」でクラウドファンディングに挑戦。52人の支援者から目標金額を上回る726,067円を集める。

### 2020年～
**コロナ禍でも地道な活動を地域で展開**

緑区の区民文化センターで役者仲間や警察、消防、地域ケアプラザ職員らと一緒に、配信動画を活用した高齢者向けの特殊詐欺防止啓発活動を行う。

### 2022年～
**地域の人を巻き込んでの演劇を展開**

青葉区、都筑区、港南区、中区など、横浜市各地に活動が広がる。「表現のチカラ」の表現者仲間だけでなく、高校の演劇部や舞台経験のある高齢者を舞台にあげ、ともに舞台をつくり上げるように。

### 2024年
**市との協働事業に**

横浜市市民局地域防犯支援課と、特殊詐欺防止の啓発をテーマにした事業の方向性が合致。市民局とセンターが「表現のチカラ」の提案をサポートし、全18区での防犯演劇実施に向けての活動を後押しする。

### 市民協働提案事業とは

市民協働条例に基づき、横浜市から協働事業の相手方を募集したり、市民等から市に対して市民協働事業を提案することができます。事業の実現性を高めるために、市民局やセンター等が事業の実現に向けたアドバイスやコーディネートを行います。

「表現活動で啓発を続けるなかで、特殊詐欺被害だけでなく認知症予防や他団体との協働による乳がん予防など、テーマも広がってきました。表現者の力と地域課題を掛け合わせ、各区の地名なども織り交ぜた表現活動をして、観客に自分ごととして受け取ってもらえたら」

地域の表現者に出演していただきました。

【特殊詐欺】
「だまされないプロになろう！～鶴見区～」
2025年2月5日（鶴見区・鶴見公会堂）

# ヤングケアラーに寄り添う社会へ
## ～ともに取り組む社会課題～

左から
横浜創英大学　**横山 恵子教授**
大阪大学　**薗山 正子教授**
NPO法人よこはま地域福祉研究センター　**佐塚 玲子センター長**

**ヨコラボ2024 市民協働シンポジウム・ラウンドテーブル**

**2024年10月31日開催の【ヨコラボ2024】では、誰かに頼ってもいいんだと思える「こどもがこどもでいられる街」をつくりませんか？と呼びかけ、「ヤングケアラー」をテーマに語り合いました。**

### 変化への気づきと環境の理解

家族や周囲のケアを担う「ヤングケアラー」と呼ばれる子どもたちが増えています。
彼らは、家事や家族の世話に追われる中で、子どもらしい時間を奪われていることが少なくありません。そんな彼らが「一人じゃない」と感じられるように、私たちは何ができるのでしょうか？

社会課題についての現状を学び、様々な立場の人が「自分にできること」を、ともに考えることで単純な手法では解決困難な課題に対してアプローチしていくことを目指した市民協働シンポジウム・ラウンドテーブルで、「ヤングケアラー」を取り上げました。
登壇者の話から、当事者が必ずしも辛い思いだけで家族の世話をしているわけではないこと、「かわいそう」「親がひどい」といった社会の一方的な捉え方が助けを求めにくくしていることなどにより、課題が顕在化しにくいという現状があること、だからこそ行政のみならず地域の様々な人が、子どもや家庭の変化に気づき、見守り合うことが大切であることを学びました。

参加者からは「地域、市民、専門職が一体となり子どもを支える社会の重要性を感じた」という声や、「支援者として子どもの状況を客観的に認識できる知識が必要」といった意見が寄せられました。また、「情報が集めにくい」「子どもが安心して話せる場がない」といった課題に対して、「地域資源のネットワーク強化」や「当事者の声を聴ける環境づくり」の必要性が議論されました。

### 連携支援十か条（抜粋）

- **ヤングケアラーが生じる背景を理解し、家族を責めることなく、家族全体が支援を必要としていること（中略）を理解すること**
- **緊急な場合を除いて、（中略）本人の意思を尊重して支援を進めることが重要であること（中略）を理解すること**
- **ヤングケアラー本人や家族が支援を望まない場合でも、意思決定のためのサポートを忘れずに本人や家族を気にかけ、寄り添うことが重要であること（中略）を理解すること**
- **円滑に効果的に連携した支援を行う事ができるよう、日頃から顔の見える関係作りを意識すること**

出典：「多機関・多職種連携によるヤングケアラー支援マニュアル～ケアを担う子どもを地域で支えるために～」（2022.3　有限責任監査法人トーマツ）

# 若者の社会課題への挑戦
## ～つなごう！ 立ち上がった10代の声が届くように～

**相談・伴走からミズベサロンへ**

**10代の若者たちが、自らの経験や思いをもとに当事者意識を持って行動を起こし始めています。その熱意ある活動をさらに広げていくため、センターではこれまで、団体の課題整理の相談対応や伴走支援を行ってきました。**

### 伝えたい、若者たちが作る未来

同世代の活動者の対話や交流により、新たな展開が生まれるのでは？という考えのもと、彼ら3団体が集う会を企画しました。互いの活動や思いを紹介し合う中で、大人にもっと自分たちの考えを一緒に伝えたいという思いが生まれ、若者を応援したい大人や行政職員も含めた、立場や年齢を超えたゆるやかな交流の場「ミズベサロン」開催に繋がりました。交流の場では積極的な意見交換が行われ、団体からは「たくさんの応援の言葉をもらい活動に自信が持てた」、参加者からは「若者の視点の広さや発想力に驚いた」などの感想が寄せられました。
若者たちの行動力と創造性は、地域の未来を切り拓く大きな原動力です。このミズベサロンが、彼らの挑戦を地域や社会が温かく支え、新たな可能性を広げるきっかけとなることを心から願っています。

### 子どもの輪
**―起立性調節障害を当事者から広める会―**

起立性調節障害の中高生当事者や元当事者が中心となり設立した団体で、NPO法人化を目指しています。思春期前後の子どもやその家族、学校、さらに社会全体に向けて病気への正しい理解を広めるため、リーフレットの作成や講演会の開催など、情報発信や啓発活動に取り組んでいます。

### リスポーン

不登校の子どもたちが安心して過ごせる居場所をつくることを目的に活動する団体です。元不登校の中高生や現在不登校でフリースクールに通う中高生が中心となり、「学校に行けない」「友達が欲しい」などの子どもたちに寄り添い、孤独を感じる子どもたちを支援しています。

### 特定非営利活動法人 HpRun

「若者×社会貢献活動×スポーツ」をテーマに、10代の若者が主体的に活動するNPO法人です。スポーツや環境関連イベントの開催、地域運動部活動の推進、ネイチャークエスト（公園で体を動かしながら、環境問題に取り組むイベント）やランニング指導など、多岐にわたる活動を展開しています。

## 市民協働スタートアップ2024

「市民協働とは」、「行政との協働のコツ」など地域課題解決に向けた知識と実践を学び、新たな協働の一歩を踏み出すための連続講座を行いました。
第１回は横浜市の市民協働の歴史や市民協働の意義について、第２回ではお互いを理解しあい実践できるチームビルディングについて、第３回では、現場で問題の本質を探究し、解決策を導き出すフィールドワークについて学びました。今年度は、スピンオフ企画として、参加者同士で主体的に地域に出て、問題の本質を探究するフィールドワークも行い、地域で活動する市民との関わりの中で、様々な気づきがありました。

登壇者
第１回：産業能率大学　**中島 智人教授**
第２回：センター長　**伊吾田 善行**
第３回：東京工業大学（現：東京科学大学）　**那須 聖教授**

## 市民協働相談会

イベント開催レポート

協働コーディネーター
株式会社 EMA 代表取締役
**楯 晃次** さん

ゲスト
NPO 法人街の家族 理事
**坂田 美絵** さん

### Vol.1 ―若手人材が楽しく活躍できる組織を目指して―

多くの団体の課題「若手人材の不足」をテーマに、NPO法人の若手理事と非営利組織の経営・マネジメントの専門家をお招きし、理事長のスカウトにより利用者から理事になった経緯や、若手世代の「思いついたら即やる！」を支える年上世代の心構えや関わり方を紹介いただき、また組織運営の際の重要なポイントについて解説いただきました。自団体を振り返り、今後の運営に活かす機会となりました。

協働コーディネーター
認定 NPO 法人びーのびーの 事務局長
**原 美紀** さん

ゲスト
関東学院のびのびのば園
地域連携専任教諭
**石井 雄輝** さん

ゲスト
関東学院大学教育学部こども発達学科 准教授
**三谷 大紀** さん

### Vol.2 ―地域でつながり、まちを元気に～こども園の地域連携事例から学ぶ～―

こども園や子育て、まちづくりに日頃から関わっている方々をお招きし、こども園の事例を切り口に、様々な主体間の連携によるまちづくりについて参加者と一緒に考えました。子どもの保育に地域を活用したり、子どもや園自体を、地域を繋ぎ活性化していくハブにすることで、自治会やケアプラザ、他の幼稚園・保育園、企業との連携や協働が生まれ、地域が活性化していった体験談から、多くのヒントを得ることができました。

## 市民活動基礎セミナー

### よこはまNPO　会計セミナー

講師：税理士法人吉澤会計事務所 代表社員税理士
特定非営利活動法人税理士による公益活動サポートセンター 理事　**吉澤 寿朗** さん

市内のNPO法人等の会計担当者が、講義やグループワークを通して、会計を行う目的や決算までの会計処理の流れ、公開義務のある書類の作成のポイントなどを学び、団体の経営をサポートする力を身に付ける機会となりました。

### PRセミナー

**「元新聞記者に聞く！ 新聞記者に向けた情報発信～プレスリリースのポイント～」**　講師：元朝日新聞記者　**真下 聡** さん

元新聞記者の方を講師にお招きし、広報手法の一つであるプレスリリースの概要や他の広報媒体と比較した際の特徴、ニュースになるまでのハードル、見出しの重要性などについてご講義いただき、実際のプレスリリースの事例を基にグループワークを行いました。プレスリリースを書くコツを学んだことで、SNS やチラシにとどまらず、新聞というマスメディアを通して自分たちの活動や思いを広く社会に発信することが、活動への共感者や応援者を増やすことにつながるということを実感する機会となりました。

## YOKOHAMAイノベーションダイアログ

多様な主体との対話を通して、社会課題の新しい解決の糸口を見つけ、事業や取組の活性化を目指すための場「YOKOHAMA イノベーションダイアログ」を、協働・共創の一体的取組の一環として開催しました。
参加者から「日頃の活動では出会えない新たなつながりができた」「企業として、社会課題に向き合う市民団体、市役所の関係部署の方とつながれて良かった」などの感想が寄せられました。
協働や共創はまさに対話から生まれます。このようなセクターを超えた人々が集い、社会課題について話し合える場を今後も作っていきます。

## 協働HUB　公益事業者交流会

横浜市では、市内の課題解決や公益事業を行う多様な機関や団体が活動しています。相互に事業内容を共有し交流する機会を作ることで、相互理解と連携を促進し、事業の質を向上させることができるのではと考え、センターでは昨年度より交流イベント「協働HUB」を開催しています。今年度は2回目の開催となりましたが、本イベントをきっかけに新たなつながりや、事業の連携に向けた動きが生まれています。

## 市民活動アピールDAYS（5･8･10月）

市民団体の活動をアピールする場として、年に数回「市民活動アピールDAYS」を実施しています。今年度は市庁舎のイベントにあわせ「紙芝居文化推進協議会」の紙芝居、「認定NPO法人おもしろ科学たんけん工房」のワークショップを開催し、たくさんの市民の皆さんにご参加いただきました。また、日頃よりセンター内大型スクリーンで団体の活動を紹介したり、チラシを配架するなど、１年を通して市民団体の活動の広報をサポートしています。

**センターは、総合相談・情報提供の機能を備えた市民協働スペースとして、市民や地域団体の声に耳を傾けながら、課題解決に向けた団体への伴走支援やコーディネート、講座等を行っています。令和6年度は、京都・神戸の社会課題解決やその支援に取り組む団体・施設を訪問し、多様な取組を学び、新たな協働推進の視点を得ることができました。今後も情報発信や交流の場の提供など、幅広い取組により、皆さんの活動を応援していきます。**

# 最新情報・お役立ち情報をお届け

## HP や SNS、メルマガなどで皆さんのお役に立つ情報をいち早くお届けします！

### HP をリニューアルしました

**ホームページ**

協働への理解を広め、地域・社会課題の解決や担い手発掘へとつながるような取組を取材し、「取組紹介」として紹介しています。センターの利用ルールや団体登録の手順、ご相談の流れなどもHPからご確認ください。

ホームページ

**SNS**

### X、Facebook、Instagram

センターからのお知らせやイベント情報など、最新情報をタイムリーに発信しています。

X　Facebook　Instagram

**メールマガジン**

ご登録はこちらから

センターからのお知らせやイベント情報のほか、助成金情報など団体の活動に役立つ情報をお届けしています。

メールマガジン

**リーフレット**

センターの取組や活用方法などをまとめたリーフレットです。HPからダウンロードが可能です。

**スペース利用**

センターのスペース「協働ラボ」・「スペースAB」は、登録団体の打合せやイベントにご利用いただけます。事前に団体登録を行った上で、ご活用ください。

協働ラボ

スペースAB


企画・編集
認定 NPO 法人
森ノオト

2025.3　発行



横浜市市民協働推進センター

〒231-0005
神奈川県横浜市中区本町 6 丁目 50-10
横浜市庁舎 1 階

平日　9:00-20:00　TEL: 045-671-4732
土日祝 9:00-17:00　FAX: 045-223-2888


※平日夜間の利用予定がない場合は 18 時に閉館します。
　閉館時間は HP をご確認ください。

ご相談・お問合せは、
下記の HP よりフォームにて受け付けております。

https://kyodo-c.city.yokohama.lg.jp/

ACCESS　みなとみらい線「馬車道駅」1C 出入口直結
JR・市営地下鉄「桜木町駅」徒歩 3 分

横浜市
市民協働
推進センター